

令和7年度 学校教育自己診断の結果と分析

【学習指導等】

- ・「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」(生徒)の肯定率は、令和6年度、7年度ともに88%と高い水準を維持しており、各教科で学習内容をアウトプットする授業を実践している成果が表れている。特に、トネ究(総合的な探究の時間)で3年間の継続したカリキュラムで実施している個別探究の影響は大きいと考えられる。
- ・「学習の評価は、テストの点数だけでなく生徒の努力や取り組みの変化等を含めてされている。」(生徒)の肯定率も、令和6年度、7年度とも88%であり、高い水準を維持した。観点別評価による学習評価が安定的に実施され、学びに対する姿勢などが適切に評価できていると考えられる。
- ・一方で、「学校の授業はわかりやすい」(生徒)の肯定率は、令和6年度の83%から、令和7年度は80%に下降した。授業で学習のめあてを明示することと、生徒の理解度を見取りながら授業を進めていく等の工夫が必要である。

【進路指導等】

- ・「学校で将来の進路や生き方について考える機会がある。」(生徒)の肯定率は、令和6年度95%、令和7年度94%、「ホームルームなどで進路についての情報が提供されている」(生徒)の肯定率は、令和6年度96%、令和7年度94%と高水準を維持した。1年次から計画的に実施されている進路指導と学習支援クラウドサービスを活用した最新の大学等の進学情報の配信が効果であると考えられる。
- ・「学校は、長期休暇中の講習や進路指導等を実施している」(生徒)の肯定率は、令和6年度97%、令和7年度96%でありこちらも高水準を維持している。夏季休業中の講習を中心として生徒のニーズに応じた講習が実施できていると考えられる。

【生徒指導等】

- ・「学校の生活指導の方針について納得できる」(生徒)の肯定率は、令和5年度72%、6年度77%、7年度78%と着実に上昇している。昨年度の1月より授業の最初に制服の着こなしを確認する「身だしなみチェックデー」を実施し、全教員で指導することで、生徒にとって納得感のある生徒指導ができていると考えている。引き続き、生徒に対して、高校生として「当たり前のことを当たり前」に行い、全員が安心して学校生活をおくれるように指導していきたい。
- ・「悩みや相談に親身になって聞いてくれる先生がいる」(生徒)の肯定率は、令和6年度、7年度ともに79%となった。教員の生徒に寄り添う指導は実施できていることと教員間で綿密に情報共有を行っていることが要因と考えられる。今後も、生徒の小さな変化を見逃さない態勢を維持していきたい。

- ・「学校の授業や行事で人権の大切さを学ぶ機会がある。」(生徒)の肯定率は、令和5年度81%、6年度84%、7年度83%と高水準を維持した。引き続き、授業や特別活動等すべての教育活動で人権感覚を育成する教育を進めていく。

【特別活動等】

- ・「文化祭や体育大会は活発で楽しい」(生徒)の肯定率は、令和5年度91%、6年度93%、7年度は94%とさらに上昇した。令和5年度より、文化祭の服装を「公衆道徳に反しない限り自由」というルールで実施し、生徒たちの自主性に任せたので、このような結果となったと考えている。今後も生徒たちが自主的に取り組む学校行事を実施していきたい。
- ・「部活動に積極的に取り組んでいる」(生徒)の肯定率は、令和6年度75%から令和7年度は78%に改善
- ・「生徒会活動や部活動が十分できる環境が整っている」(生徒)の肯定率は、令和6年度83%から令和7年度85%に上昇
部活動については、加入率は前年度と同様79%であったが、積極的に取り組んでいると感じている生徒が若干上昇した。また、教職員の働き方改革を進めていく中で、新しい部活動の在り方を考えていく必要がある。

【学校運営等】

- ・「学校に行くのが楽しい」(生徒)の肯定率は、令和6年度の84%から7年度は85%と若干上昇した。大半の生徒が学校での生活を肯定的に捉えているが、すべての生徒が安全・安心に学校生活をおくることをめざして、引き続き教育活動を進めていく。
- ・「先生は、熱心に授業や部活動・その他の仕事にあたっている。」(生徒)の肯定率は、令和6年度87%、7年度は86%と高水準を維持した。
- ・「学校での授業や部活動を通じ、近隣の学校や地域との交流機会がある」(生徒)の肯定率は、令和5年度49%、6年度52%、7年度60%と大きく上昇した。今年度も校内で蜷池公民館主催の行事の実施、刀根山フェスタの参加など、積極的に地域との交流をすすめてきた。引き続き、地域貢献や他校種との交流を一層、積極的にすすめていきたい。
- ・昨年度より新設した「学校は、国際理解教育に積極的に取り組んでいる。」(生徒)の肯定率は、令和6年度68%から7年度80%を大幅に上昇した。16年ぶりに実施した海外修学旅行が大きな要因となっているが、その他にもインドから来日した中学・高校生との交流や近隣の日本語学校との交流など校内で実施した行事も上昇の要因となっていると考えられる。